

報告事項 ウ

令和7年度英語力向上に係る外部試験（4技能型英検 I B A）の結果について

令和7年度英語力向上に係る外部試験（4技能型英検 I B A）の結果について、別紙のとおり報告します。

令和7年12月24日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

令和7年度英語力向上に係る外部試験（4技能型英検ⅠBA）の結果について

令和7年12月24日  
小中学校課

令和7年6月9日（月）から令和7年7月25日（金）までの間に、中学校3年生（義務教育学校9年生）を対象として実施した外部試験（4技能型英検ⅠBA）の結果について、以下のとおり報告します。

○中学校3年生（義務教育学校9年生）を対象として実施した4技能型英検ⅠBAにおいて、英検3級（※1）レベルに達している生徒の割合は、リーディング・リスニングのテストでは43%（令和6年度：51%）、ライティング・スピーキングのテストでは46%（令和6年度：54%）であり、いずれも昨年度を大きく下回った。

○技能別の平均CSEスコア（※2）は、英検3級レベルを上回ったのは「リスニング」のみで、それ以外は下回った。特に「リーディング」、「ライティング」については、英検3級レベルを大きく下回っている。

○令和5年度から、本試験とともに中学校1、2年生（義務教育学校7、8年生）を対象に2技能型英検ⅠBA（リーディング・リスニング）を実施しており、経年での伸びを見ることができるようになった。現中学校3年生（義務教育学校9年生）の英語力の伸びについては、1年次から3年次にかけて、「リーディング」、「リスニング」いずれの技能においても、3年間で大きくスコアを伸ばした。（※3）

⇒スコアは大きく伸びているが、現中学校3年生（義務教育学校9年生）が、昨年度（2年次）に実施した「2技能型英検ⅠBA」の結果を、一昨年度の中学校2年生のスコアと比較すると、「リーディング」、「リスニング」とともに大きく下回る状況にあったことに注意が必要。

※1 英検3級：国が示す中学卒業段階での英語力の指標（CEFR A1）の例として示される外部試験資格の1つ

国の第4期教育振興基本計画では、生徒の英語力について、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当（英検3級程度）以上を達成した生徒の割合を令和9年度までに6割以上にすることを目標とするとともに、全ての都道府県・政令指定都市において、同指標を達成した生徒の割合を5割以上にすることを目指すことが示されている。

（参考）国の英語教育実施状況調査における同指標を達成した鳥取県の中学校3年生の生徒の割合

令和4年度：34.6% 令和5年度：51.0% 令和6年度：52.5%

※2 CSEスコア（Common Scale for English）：英検協会によって作成された、英語力を示す尺度（詳細は次頁参照）

※3 1、2年生で受験する2技能型ⅠBAではライティング・スピーキングテストを実施しないため、経年での伸びを見ることができるのは上記2技能のみ。

## 1 受験実績

- (1) 受験校数 58校 / 58校（公立中学校・義務教育学校）  
 (2) 受験者数 中学校3年生・義務教育学校9年生  
 ・リーディング・リスニング 3,862名  
 ・ライティング・スピーキング 3,860名  
 ※「リーディング・リスニング」と、「ライティング・スピーキング」の2種類のテストをそれぞれ実施しているため、テストによって受験者数が異なる。  
 (3) 受験期間 令和7年6月9日（月）から令和7年7月25日（金）まで

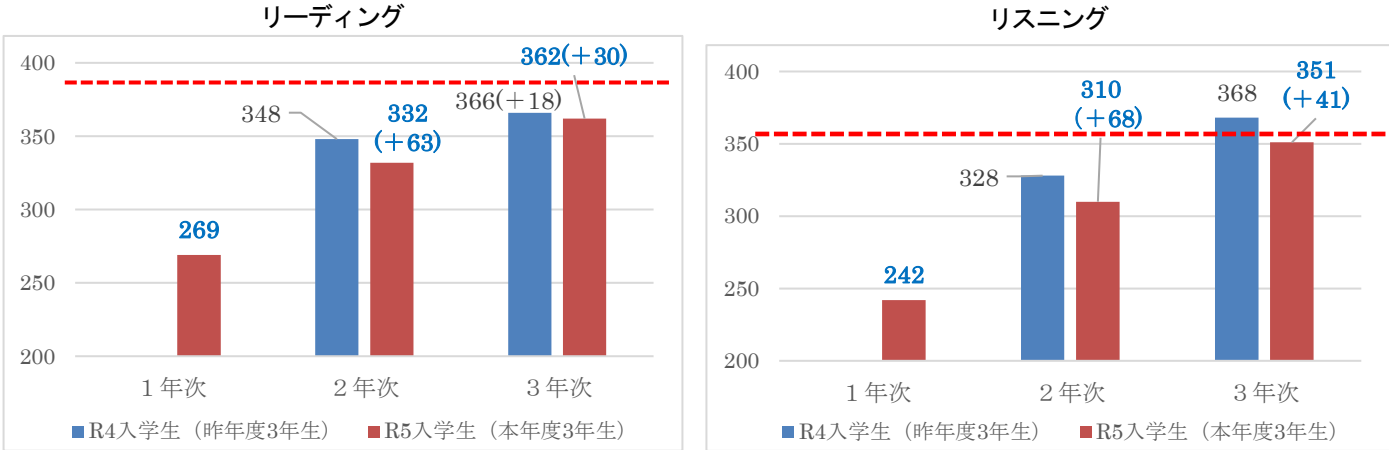
## 2 受験結果概要

（ ）内は、令和6年度の中学3年生（義務教育学校9年生）の値

技能	問題内容	正答率(%)	CSEスコア	英検3級基準 CSEスコア	英検3級レベル 以上割合(%)	概要（人数分布及び課題等）
リー デ ィ ン グ	語句の空所補充	52.6(51.4)	362 (366)	379	43 (51)	・多くの生徒が4級レベル後半の力を身に付けている。 ・「会話文の空所補充」の正答率が昨年度に比べて大きく減少した。例年課題が見られる「長文読解」の正答率が若干向上したが、4割程度にとどまっている。
	会話文の空所補充	51.5(60.5)				
	長文読解	40.7(39.8)				
リス ニ ン グ	会話の応答	52.5(55.7)	351 (367)	349		・多くの生徒が3級レベルの力を身に付けている。 ・昨年度向上の見られた「パッセージの内容理解」(※)の問題の正答率が大きく下がった。
	パッセージ(※)の内容理解	44.4(51.2)				
ライ テ ィ ン グ	内容	56.6(61.4)	336 (364)	375	46 (54)	・多くの生徒が3級レベルの力を身に付けていない。 ・正答率は「内容」が最も高く、「文法」が最も低い。質問に対して適切な内容を書くことができず0点となった生徒が約1割いる。
	構成	54.2(60.1)				
	語い	52.4(57.7)				
	文法	51.0(55.8)				
スピー キ ン グ	自分についてのQ&A	74.2(61.6)	349 (353)	353		・多くの生徒が概ね3級レベルの力を身に付けている。 ・「自分についてのやり取りをする」問題の正答率が令和5年度から3年間で最も高い値となった。一方、「英文についてのやり取りをする」問題の正答率が昨年度よりも大きく下がった。
	音読	44.2(43.8)				
	英文についてのQ&A	42.7(52.4)				
	イラストの描写	45.1(48.5)				

※パッセージ：英検ⅠBAの試験問題においては、1人の話者による2、3文程度の説明文のこと。

3 令和7年度中学校3年生（義務教育学校9年生）の3年間の英語力の伸び（CSEスコアの比較）  
（ ）は前年度からのスコアの伸び。赤点線は英検3級基準CSEスコア。



<参考：CSEスコア（Common Scale for English）について>  
・技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）ごとでの英語力を把握することが可能。また、継続的に活用することで、技能ごとでの英語力の伸長度を把握することが可能。  
（CSEスコアによる、英検合格レベル判定基準）

	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
4技能総合	2304	1980	1728	1456		
リーディング	598	511	448	379	330	236
リスニング	603	503	430	349	292	183
ライティング	591	506	444	375		
スピーキング	512	460	406	353		

4 分析及び今後の方向性  
【分析】

- (1) 本試験結果について、本県の英語教育推進に関わっている外部有識者から助言をいただいた。外部有識者による助言と日本英語検定協会から示された成果と課題を踏まえた、技能別の分析については以下のとおり。
- 〔リーディング〕例年長文読解について課題が見られる。まとまった英文を理解することの困難さに加えて、問いの趣旨を理解できていない生徒が一定数いることが考えられる。
- 〔リスニング〕短文は理解できても、まとまった英語を聞き、要点等を捉える力が身に付いていないことが考えられる。
- 〔ライティング〕基礎的な語彙や文法が身に付いていないために、自分の考えを十分に表現することができないことが考えられる。
- 〔スピーキング〕自分のことについてやり取りする力は身に付きつつあるが、読んだり聞いたりして理解したことを基に話す力が身に付いていないことが考えられる。
- (2) 県内各学校においては「使いながら英語を身に付けられる授業づくり」が浸透し、教師や生徒の英語使用場面が増加しつつある。一方で、言語活動の質は学校や教師によって異なっており、教師による生徒の見取りや指導、支援が十分ではない授業も散見される。また、授業改善が個々の教員の取組となっており、3年間を通した系統的な指導が十分になされていない。これらのことにより、生徒の力を十分に伸ばすことができないことが考えられる。

【今後の方向性】

- (1) 言語活動を通した指導の推進  
外部有識者からの指導改善に向けた提案を踏まえ、特に以下の視点に留意しながら、引き続き言語活動を通した指導を推進する。
- |                   |   |
|-------------------|---|
| 基礎的な知識・技能の定着      | 基礎的な語彙や文法を着実に定着させるため、英作文の添削後、再度同様の話題で書かせる等、言語活動後に適切な指導を行い、繰り返し活動に取り組ませる。                      |
| 複数の技能を統合した言語活動の実施 | 様々な話題について事実や自分の考えを表現する力を育成するため、「読んだり聞いたりしたことについて自分の考えを話す」「理解した情報を整理して書く」等、複数の技能を関連付けた言語活動を行う。 |
| 読んだり聞いたりする目的の明確化  | 目的に応じた読み方や聞き方を身に付けさせるため、漠然と英語を提示するのではなく、問いを立てる等、理解するための視点を明確にしてから、読んだり聞いたりする活動を行う。            |
- (2) 各学校における組織的な授業改善の支援  
本試験結果を「学校全体で、3年間を通して生徒の英語力を伸ばす」ことにつなげるため、各学校に「英検I B A結果活用シート」（令和6年度鳥取県教育委員会作成）を活用し、教科会等で生徒の英語力について分析し、授業改善に向けた取組の報告を求めているところ。今後も、本試験を活用した教科会の活性化等、学校全体での組織的な指導改善を支援する。
- (3) 教育研究団体等との連携の促進  
教育研究団体や各市町村（学校組合）教育委員会と連携を深め、本試験結果や各学校からの報告を基に、英語教育推進に係る各学校及び地域の課題やニーズに応じた支援を充実させる。